

## ガサガサの手

私の知人が、介護施設に入所しており、先日、顔を見に行きました。

知人がお世話になっている介護職のみなさんと、お礼のために握手をさせていただいたところ、みなさんの手が、一様にガサガサに荒れていることに驚きました。後日、市役所の職員の何人かと握手しましたが、ツルツルとしていて、全く違う手でした。

私が知人のところにいる間にも、入所者一人ひとりに、「寒くはないですか」「足を上げた方が、体が楽ですよね～」「顔を見に来てもらって、よかったですね」など、目線を合わせて声を掛けていました。現場で一生懸命、相手と向き合う姿には、本当に頭が下がりました。

施設には、ボランティアの70代男性もいらっしゃいました。「自分と同じ年くらいの方が、介護される立場にいる。でも、私は元気で、こうしてボランティアとして働くことができ、本当にありがたいと思っています。何より、こうしてみなさんと話をできることが楽しいですよ」と私に話してくれました。

私は、長年、介護関係の仕事に携わってきた経験から、意識的に動かないと、いずれ動けなくなって、寝たきりになってしまうことを知っています。動かずにいる生活を続けた結果、介護が必要になった人に対して、介護保険があるからといって、若い介護職のみなさんが、手をガサガサにしながら寄り添うのは、何か違うと感じます。

多くの方から、「寝たきりにはなりたくない」という声をお聞きします。そう思うならば、テレビの前に座る毎日ではなく、趣味でも、ボランティアでも、仕事でもいいので、「今日、用がある」「今日、行くところがある」という「きょうよう」と「きょういく」のある生活を送ることが大切です。友人やご近所どうして誘いあってほしいと思います。

そして、もし、みなさんにも、介護施設に入所している知人がいらっしゃるなら、ぜひ、顔を見せに行っておあげてください。例え認知症であっても、自分に向き合ってくれる人が会いに来てくれると、とてもうれしいものなのです。

～市長の話を聞いて～

市長の話を聞き、私もホームヘルパーで働く知人と握手を試みました。彼女の手もガサガサでした。それを言うと、彼女は「そうなのよ～。ガサガサなのよ～」と笑い飛ばしていました。

私は介護の経験がなく、大変さは想像もつきませんが、私が知る介護職のみなさんは、いつも笑顔で、明るい人ばかりです。昨今、介護職の悪いニュースを目にする機会も多いですが、手をガサガサにしながらも明るく利用者に向き合う介護職のみなさんの方が圧倒的に多いのだと感じ、頭が本当に下がる思いです。